

# 2015年新春TOPインタビュー



大日本コンサル  
タント

高久 晃 社長

## 技術力の維持、強化へ注力

受注環境の変化、品質の確保、担い手の確保を課題に挙げる。「受注環境が変わることによって大きく落ち込むことがあってはいけません。今のうちに手を打っておく」。業界全体の課題でもある担い手の確保は「労働環境の改善が必要だ。やりがいのある職場にしなければならぬ」。

「これまでのコア事業のシェアをアップしていく」。また、国土強靱化基本法、インフラの維持修繕なども「シェアを高めることが大きな課題だ」。得意とする橋梁は「今後出てくるかどうか分からないが、大規模橋梁の技術はきちんと研さんし、継承していく」。新設だけでなく、吊り橋や大型の斜張橋の耐震補強にも取り組んでおり、「長大

術研究所をつくり、大学やゼネコンなども連携を促進している。「異業種のメーカーなどもインフラの長寿命化に着目しており、コンサルタントとしてかわるスタンスを模索しながら取り組んでいる」。

海外の売り上げは全体の数%にとどまっている。「売り上げの1割以上のオーダーにしたい。人材の育成から考える」と、あせらずいろいろな会社と連携し、着実に増やしていきたい。海外はマーケットとしての意味合いのほかに、規模の大きな橋梁のプロジェクトもあり、社員の技術力を維持・向上させるフィールドという意味でも継続していく。

橋に関する技術力を維持、強化するためにも今後も注力していく」。

維持管理が受注高に占める割合は、震災後少し減ったが、基本的には増えている。保全エンジニアリング研究所を昨年7月に発展的に解消してインフラ技術

東北で行っているが、「維持管理などに形を変えて出てくるだろう。このあたりもきちんと強化していきたい」。再生可能エネルギーの取り組みは「コンパ